

2020年5月13日

旬刊福利厚生購読者各位

株式会社労務研究所
旬刊福利厚生編集部

「旬刊福利厚生」2020年4月下旬号 (No.2294)

お詫びと訂正

「特集／多様化する『テレワーク』の現状」の17・18ページに掲載致しました、田中 敦山梨大学教授の寄稿「AC (AfterCorona) を見据えたワーケーションの新たな役割と価値」において、17ページの「表1 日本型ワーケーションの分類」に誤りがありましたので、お詫びするとともに下記のとおり訂正いたします。

誤りの箇所 分類の「2. 日常詰め込み型」とあるのは、正しくは下記の通り「2. 日常埋め込み型」となります。

訂正後の表

分類	分類詳細	概要	勤務の取り扱い、必要な環境等
1. 休暇活用型	有給休暇との混合	JALで導入されているワーケーション制度のように、休暇中の特定の日に限って仕事をし、有給休暇の取得促進などに効果	年次有給休暇+テレワーク環境
	ブリージャー (Bleisure)	business (仕事) と leisure (余暇) を合体させた造語で、普段の出張に休暇をプラスし、出張業務にプラスして、前後にバケーションや地域との交流等を可能とするもの。利用者は移動費用、時間をセーブでき、非日常を過ごすことができる	業務出張 (勤務) と有給休暇の組み合わせ
2. 日常埋め込み型	リゾートのサテライトオフィスや、場所を選ばないテレワーク	WAA(いつでも、どこでも自由に働くことができる働き方) 的なワーケーション。日常的に、勤務中に中抜けして、遊びが楽しめる。長期的日常とは異なる地域に滞在や2拠点居住なども可能となり、「場所・空間・環境」の裁量、自由度が格段に高くなる。また地域コミュニティへの参加やコワーキング、コラボレーションな活動が容易になり、地方での副業や逆参勤交代的な働き方への可能性も広がる	勤務と休暇・就労時間外との混合 (時間単位年休やコアなしフレックスタイム制など) + テレワーク環境、就業時間・期間は有給
3. オフサイト会議・研修型	リゾートなどのオフサイトにおける様々な研修、ミーティング	ツーリズム用語の「MICE」の「M」に該当する、部署単位などで従来の持ち出し会議や研修旅行的に行われるもの、チームビルディングや新規アイデア創出などに活用される	勤務 (有給) 会議・研修前後の休暇や滞在期間中の休日のブリージャーとしての遊び (無給) は可能

資料出所：田中敦・石山恒貴 (2020) 「日本型ワーケーションの効果と課題一定義と分類、およびステークホルダーへの影響」日本国際観光学会論文集

●本件のお問い合わせ先

株式会社 労務研究所 旬刊福利厚生編集部

TEL 03-3583-5830 E-mail rouken@courante.plala.or.jp